

山田 龍雄

(よかネットNO.36 1998.11)

十数年前、筑豊地域のある町の振興計画策定での地元懇談会の席であったかと思うが、ある方が「高塚さんみたいなものをつくれれば、お客さんがたくさん来るのではないかと冗談半分で言っていた。この時は、小生も天ヶ瀬付近に高塚地蔵尊なるものがある、何故かしらお客さんが多いという噂を聞いていたが、実際に見ていなかったため、高塚地蔵さんの雰囲気やどの程度のお客さんが来ているのかのイメージがなかったため、その会話は弾むことなく、途切れてしまったような気がする。

それ以後、気になりながらも時が過ぎ、4年前に初めて高塚地蔵を訪れ、この地の何とも知れない雰囲気に魅力を感じてしまった。拝殿所までの石段の参道沿いには野菜、手作りの味噌、漬物などの土地の産物を置いている出店やお土産売場があり、また頂上部には背後の擁壁の壇上に参拝者奉納の仏様がところ狭しと置かれ、本堂周りの壁には無数の祈願書が貼られており、その雑然とした雰囲気が、その魅力を創り出しているようだった。

高塚地蔵の観光客は、観光動向調査によると、平成9年度には約220万人、10年前の昭和63年に約205万人、となっており、ここ10年間は安定しているようである。観光客200万人というと、スペースワールドと匹敵する数値である。

それから4年を経過した今回、何故、この地でこのように多くの参拝者が来るようになったのか

高塚愛宕地蔵尊について

天曆6年(952年)里人たちが、全国行脚中の行基が靈夢を感じこの地で刻んだという地蔵菩薩を安置して、一堂を建立したのが開基とされる。

古来、「乳地蔵」として広く信仰を集め、境内にそびえる銀杏の老雌株は、行基の靈夢が示現した靈木とされる。母乳の出の悪い婦人が、自分の年の数だけ乳首の布をつくって銀杏の木にかけて祈願すると、乳の出が良くなると信じられてきた。近年は諸願成就の靈験がある。

(郷土資料事典：大分県版より抜粋)

を知りたくなり、社務所や社会教育指導員の方に話を伺った。

口コミと交通機関の発達、参拝客増加に弾みをつける

社務所の方に参拝者が多くなったのはいつ頃で、そのきっかけは何であったのかを尋ねると、「私にも良く分からないが、昔から筑後地方の人の信仰が熱く、私の小さいころから“月一詣で”といって、月に一度参拝するような地域もあり、口コミで徐々に広がっていったようだ。」ということで、これといった理由はないようであった。そこで、公民館内の図書室に関係資料を探しに行くと、偶然にも社会教育指導員の方がいらっしゃったので同じ質問をすると「古くから地域の信仰が強いというもあるが、交通機関との発達が影響しているのでは」という答えが返ってきた。やはり、交通機関や団体旅行などの発達との関連が参拝客増加に弾みをつけたのであろうと推察され、交通機関の変遷を丹念に説明していただいた。また、駐車場の整備の変遷が、そのまま参拝者増加とつながっているらしい。

高塚地蔵でのお店は自然発生型で約70店に

社務所の方に、参道沿い及び駐車場回りのお店の数はどのくらいかを尋ねると「大小入れて、70~80店舗くらいですかね」という曖昧な返事であった。帰るときに店を数えながら降りていくと、駐車場周辺まで入れて、ほぼ70店舗(石段沿いに並ぶ農産物売場も含む)くらいであった。

参道の雰囲気をつくっている農産物販売所は30店舗あり、代々、この高塚地蔵の氏子さんたちが中心となって営業しているとのことであった。昭和45年頃に第1~2駐車場の回りに店を出したのが始まりだそう。今の階段沿いに移ったのは昭和55年頃で、すでに店をはじめて30年経過している。今は2代目がいがないために数件が空店舗になってきているらしく、街中の既存商店街と

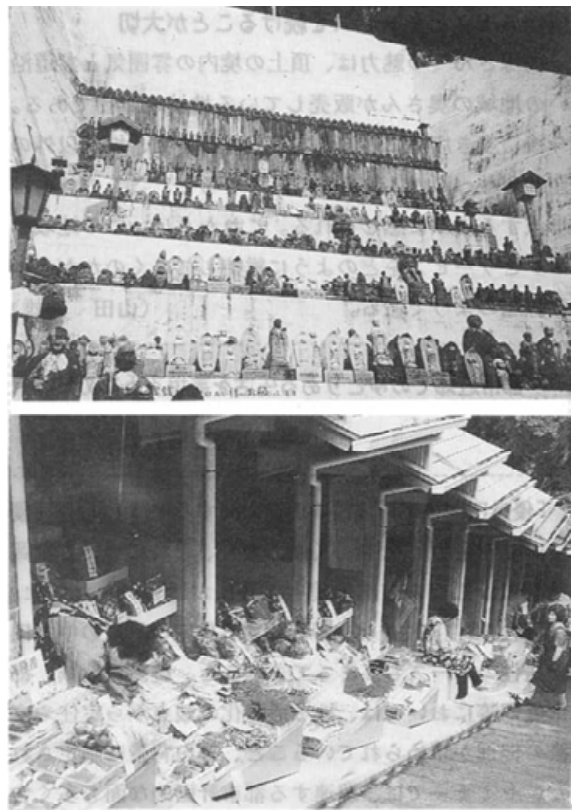
同じような悩みが出てきている。場所代を“高塚さん”の方にいくらか支払うようになっており、特に組合組織はなく、全く個人営業である。

大分自動車道開通によって、滞在時間が短くなる
よく交通条件の悪い観光地では、バイパスなどで交通条件が良くなることによって、宿泊は近くの温泉地になってしまい、泊まり客が減少するというようなことが起こる。高塚さんの場合は、宿泊は近くの天ヶ瀬温泉や原鶴温泉などの温泉地を控えていたため、宿泊客の減少というものはないものの、社務所の方の話では「高速道路が出来て、お客さんは安定してきたが、滞在時間が短くなってきたようだ。また、最近では景気低迷で財布の紐が固まっているようだ」とのこと。

高速道路が出来たため、宿泊地がさらに遠方になったこと、他に見て回るところが増えたことなどが滞在時間に影響しているのかも知れない。

地のモノとサービスを続けることが大切

“高塚さん”の魅力は、頂上の境内の雰囲気と参道沿いの地域の奥さんが販売している地域の産物である。今後、空き店舗に外部資本が入ってきて、地域以外の産物が並べられるようになってくると、この魅力は半減するよう感じられる。これからは、この地域のモノとサービスをどのように維持していくのかが大きな課題のようである。



擁壁に並べられた仏像(写真上)と石段沿いにある農産物売場(写真下)

高塚巖地蔵尊周辺の交通機関と駐車場整備状況

昭和9年に久大線全線開通

- ・これで筑後地方からの参拝者が一挙に増えた
- 昭和16年に境内拡張とお堂を上あげる。

参道改修

- ・戦時中は、出兵兵士の無事を祈願する参拝者が多かった。

昭和33年にJR豊後中川駅と高塚地蔵との日田バスの定期路線開通

- ・この時期には定期バスを出してもよい程度に参拝者が来ていた。

昭和40年に第1駐車場の整備

昭和46年に第2駐車場の一部埋立工事開始

- ・この当時の駐車場は第1、第2とも畑地を整地した程度のものだった。

昭和48年から50年に第3駐車場整備

昭和55年頃第4、5駐車場整備

- ・この時期には1.5世帯に1台の乗用車所有となり、車での移動が本格化
- ・この頃、行楽日には交通渋滞を招いていた
- ・昭和53年(最初)の観光動向調査による観光客数は既に約157万人
- ・この頃、バス会社が観光コースに組み入れる

平成4～5年頃第7、8駐車場整備

- ・平成7年11月に大分自動車道全線開通し、さらに時間距離は短くなる。
- ・駐車場台数は約700台になったが、それでも正月は渋滞するそう